

現地を訪問して思うこと

1980年理工学部卒業 矢野秀樹 B 宮城県コース

充実そして考えさせられる旅でした。震災については、数々の報道、本などを通じて知っていたつもりでした。しかし実際に震災の爪あとが残る現地にて、近親者を津波によって奪われた方から、直接お話を聞き本当に言葉を失いました。自宅、工場すべて失った校友が、復興に向けて奮闘されているというお話は、忘れることができません。

復興に向けた取り組みの中で、地区ごとに問題点があり、その進展が異なるということも現地でお聞きしました。あらためて震災のことを新聞の政治・経済ニュースのひとつとして風化させてはいけなと強く思いました。何人のかたが、「忘れられるのがつらい」とおっしゃった言葉も、心にしみております。私は現在教育現場にいます。現在の状況を、生徒達に自分が見て感じたことを伝えていきたいと考えています。それがほんのささやかですが復興の手助けになればと思っています。

最後にこの東北応援ツアーを企画・担当していただいた校友会事務局の方たち、宮城県校友会の皆様、すべての関係者に感謝したいと思います。これをお読みになっている校友の方々へ、堅苦しい重い企画と感じられているかも知れませんが、「食べる復興支援＝交流会」もあり、ツアーに参加した校友同士の交流もはかることができ、その点で本当に充実し、楽しい面もありました。是非参加をおすすめします。